SIIF
Social Innovation
and Investment Foundation
社会変革推進財団

23年度PO研修資料

公募前研修

一般財団法人社会変革推進財団（SIIF）
インパクト・オフィサー　小笠原　由佳
2023年９月

Copyright© 2023 SIIF All Rights Reserved.

一般財団法人社会変革推進財団（SIIF）概要

日本財団のメンバーが、国内にインパクト投資のエコシステムを創るため、スピンアウトして、 2017年に前身の社会的投資推進財団を設立。2019年に名称変更。

インパクトとは、「未来への意志」

経済的な価値が重要視された時代は終わり、社会、環境、文化など、価値判断のモノサシが多様化している現代。私たちは企業、自治体、NPO団体などとともに自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくるため、さまざまな事業を行っています。社会課題の解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指して、財団という、私たちの立場だからできることがあります。

Vision

社会課題解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会の礎をつくる

SIIFが目指すのは、人や地域が「それぞれの幸せ」をかなえられる包摂的な社会です。それは、人や地域がそのあり方を自ら求め、選び、創造し続けるものと考えます。

Mission

社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる

市場経済を中心とした自助、中央集権的な再分配システムに基づく公助、そして身近な助け合いの形である共助や互助。SIIFは、これらの枠組みを超えた資金・人材・知見などの資源の「新しい循環モデル」の構築を目指し、社会的な成果に対する多様な価値のモノサシを示していきます。

Value

- 表層的な解決に留まらず、システムチェンジを追求する
- 違いを受け入れ、摩擦を創造に変える
- 本質を探求し、自ら行動する

3つの新しい戦略

（2022〜2025年度）

1. 事例・実績づくり

注力する社会課題領域において、実際に社会変革につながることを示すシンボリックな事例をつくる

2. 実践知づくり

多様な実践から得られた学びを、「体系化した知見」として社会に示す

3. 場づくり

新しい経済を志向する多様な実践者が、学び合える場をつくる

注力する社会課題領域

社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくること——。
そのために、SIIFは以下の3つの戦略を実行していきます。

機会格差

地域活性化

ヘルスケア

Copyright© 2023 SIIF All Rights Reserved.

経歴

・2023年 - 株式会社藤村総合研究所　取締役（現職）
・2022年 - 株式会社日清ホールディングス　社外取締役（現職）
・2022年 - 株式会社Rennovater　社外監査役（現職）
・2023年 - SIIFインパクト・オフィサー（業務委託）

・内閣府所管休眠預金等活用制度の地域活性化を目的とした13件の事業を統括
・金融庁共催「インパクト投資 に関する勉強会」「インパクト志向金融宣言」事務局

2009年-2019年　独立行政法人国際協力機構（JICA)
・インドネシア、インド、中東欧諸国（ウクライナ、モルドバ等）。主に円借款事業の企画・　承諾・監理に従事

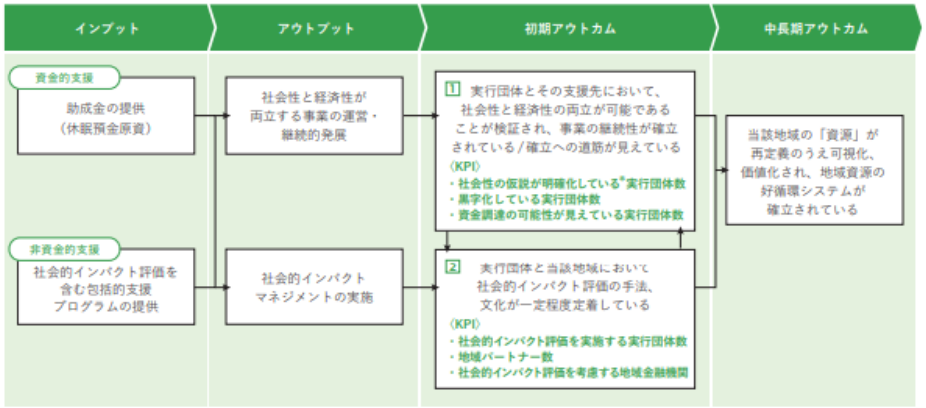
2005年- 2009年　ベイン・アンド・カンパニー / Bain & Company
1999年-2005年　国際協力銀行（JBIC）

2019年度通常枠「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業」

［事業年度 2019～2022年度］

地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業
～インパクトが持続的に創出されるエコシステム形成

SIIF2019年度事業ロジックモデル



＊社会性の仮説が明確化しているとは、取り組む社会課題をどのように解決していくのか、という仮説が明確化された状態を指す

2019年度SIIF休眠預金事業の概要

「地域の活性化」をテーマに事業を展開

SIIFの休眠預金事業が一貫して持つテーマは「地域の活性化」です。2019年度は「ソーシャルビジネス成長支援事業」を展開、地域が抱えるさまざまな社会課題の解決を図る6企業を実行団体として採択しました。資金面、非資金面の両面からの支援を通じ、当該企業が所属する地域が社会課題を自律的かつ持続的に解決できる環境の整備と、当該地域の経済の活性化を目指しています。

事業の実施内容

【事業名】「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業～インパクトが持続的に創出されるエコシステム形成～」
【公募期間】2020年3月31日～同年6月30日　【申請団体数】75団体
【採択実行団体】6団体（シェアビレッジ㈱、㈱sonraku、㈱雨風太陽（旧㈱ポケットマルシェ）、㈱御祓川、㈱Ridilover、Rennovater㈱）
【事業期間】2020年11月～2023年3月　【起用人材数】10名（プロジェクトリーダー、PO、広報、経理、監査）
【助成金総計】2億779万円　【自己資金】5,000万円

休眠預金事業 支援先企業一覧

＜ 2019年度事業支援先 ＞

シェアビレッジ㈱ https://sharevillage.co	㈱ポケットマルシェ https://poke-m.com	㈱Ridilover https://ridilover.jp
㈱sonraku https://sonraku.biz	㈱御祓川 https://misogigawa.com	Rennovater㈱ https://rennovater.co.jp

2020年度通常枠「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」

コレクティブインパクトによる地域課題解決事業

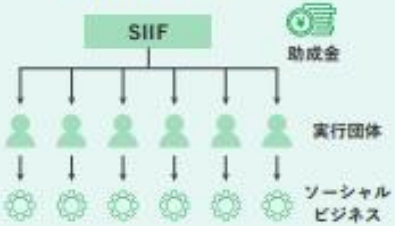
SIIF は 2020 年度休眠預金事業で地域の活性化を目的とした「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」を展開、各地域で重要な社会機能を担う事業体をコレクティブアプローチ（より高い社会的インパクト創出のため複数の組織が協同して社会課題解決に取り組むこと）により、維持・発展させていきます。

共助の機能を拡張

東京を中心とした大都市圏に人口、富、技術力が集中するなか、地域の活力の衰退が顕著となっています。SIIF はこの対策として、「自助・共助・公助」の「共助」に着目しました。共助の機能を拡張し、これまで自助に頼っていた範囲にまで関与していくとともに、コレクティブインパクト（より高いインパクトの創出に向け複数の組織が社会課題解決に対し共通に設定したアジェンダをもって取り組むこと）により共助の質を向上させ、さらに共助が公助の役割も補完することで、より的確かつ迅速、効率的に地域で社会課題にアプローチできると考えています。

2020 年度休眠預金事業は 2021 年 1 月から「コレクティブインパクトを通じた地域課題解決事業」の実行団体を公募し、申請のあった 24 団体のなかから同年 5 月に 4 団体を選出しました。2019 年度事業は各ソーシャル企業の社会課題の解決を個別に支援するスタイルであるのに対し、2020 年度は各地域で重要な社会機能を担う事業体の中心的団体と、その団体による地域支援体制の構築をサポートすることで、その中心的団体から当該事業体全体への波及効果を狙う形を採りました。

2019年度事業



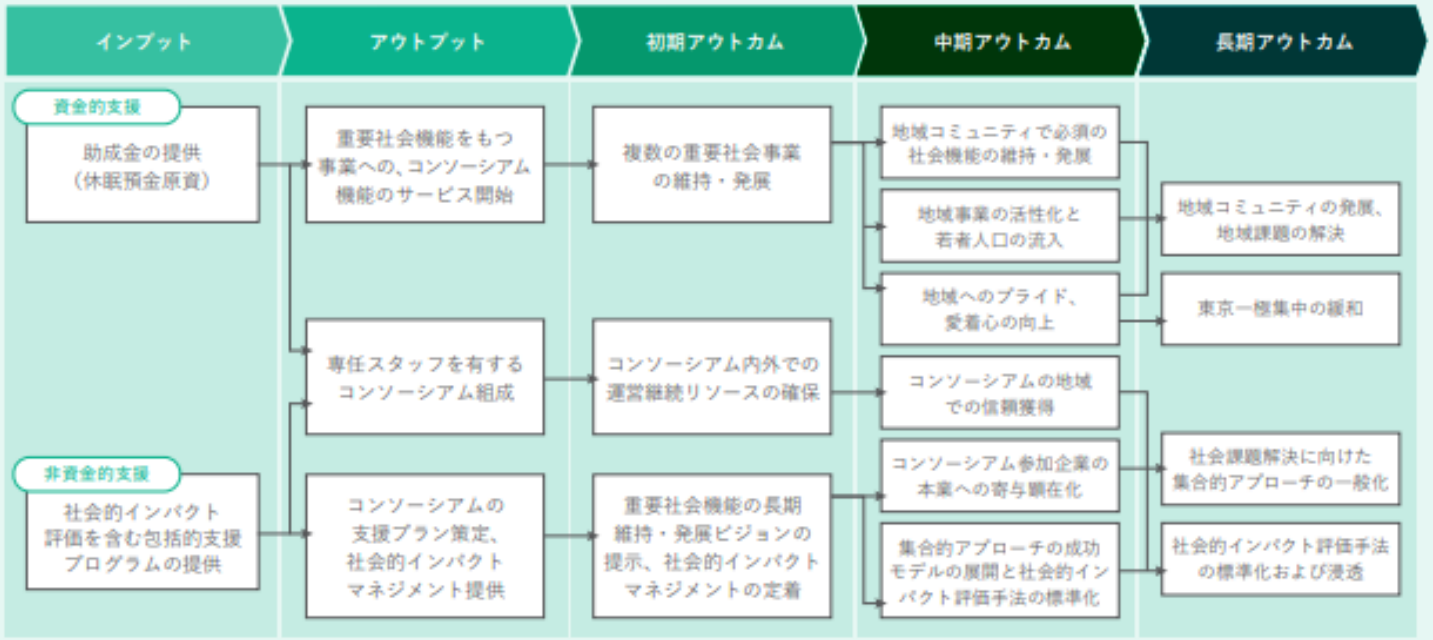
2020年度事業

公募および事業の概要

事業名：コレクティブインパクトによる地域課題解決事業 ～重要社会機能の可視化と集合的支援のためのコンソーシアム育成～
助成金総計：1 億 7,850 万円 ｜ 公募期間：2021 年 1 月 15 日～同年 2 月 12 日 ｜ 申請団体数：24 団体
採択実行団体：4 団体（（特非）空家・空地活用サポート SAGA、（特非）但馬を結んで育つ会、（一社）東の食の会、（特非）Local Life Design） ｜ 事業期間：2021 年 5 月～ 2024 年 3 月

2020年度通常枠「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」

SIIF 2020年度事業ロジックモデル



＜ 2020年度事業支援先 ＞

（特非）空家・空地活用サポート SAGA
https://sora-sora-saga.com

（一社）東の食の会
https://www.higashi-no-shoku-no-kai.jp

（特非）但馬を結んで育つ会
https://www.tms-net.org

（特非）Local Life Design

2021年度通常枠「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」

地域インパクトファンド設立・運営支援事業

SIIF は 2021 年度休眠預金事業で「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」を展開、インパクト企業に資金を循環させるとともに、地域密着型の金融機関が自立的にインパクトファンドを設立・運営できる能力を養い、将来的に地域創生を、金融機関を含めた地元企業・自治体・住民が主体的に担える状態を目指します。

自身による地域創生

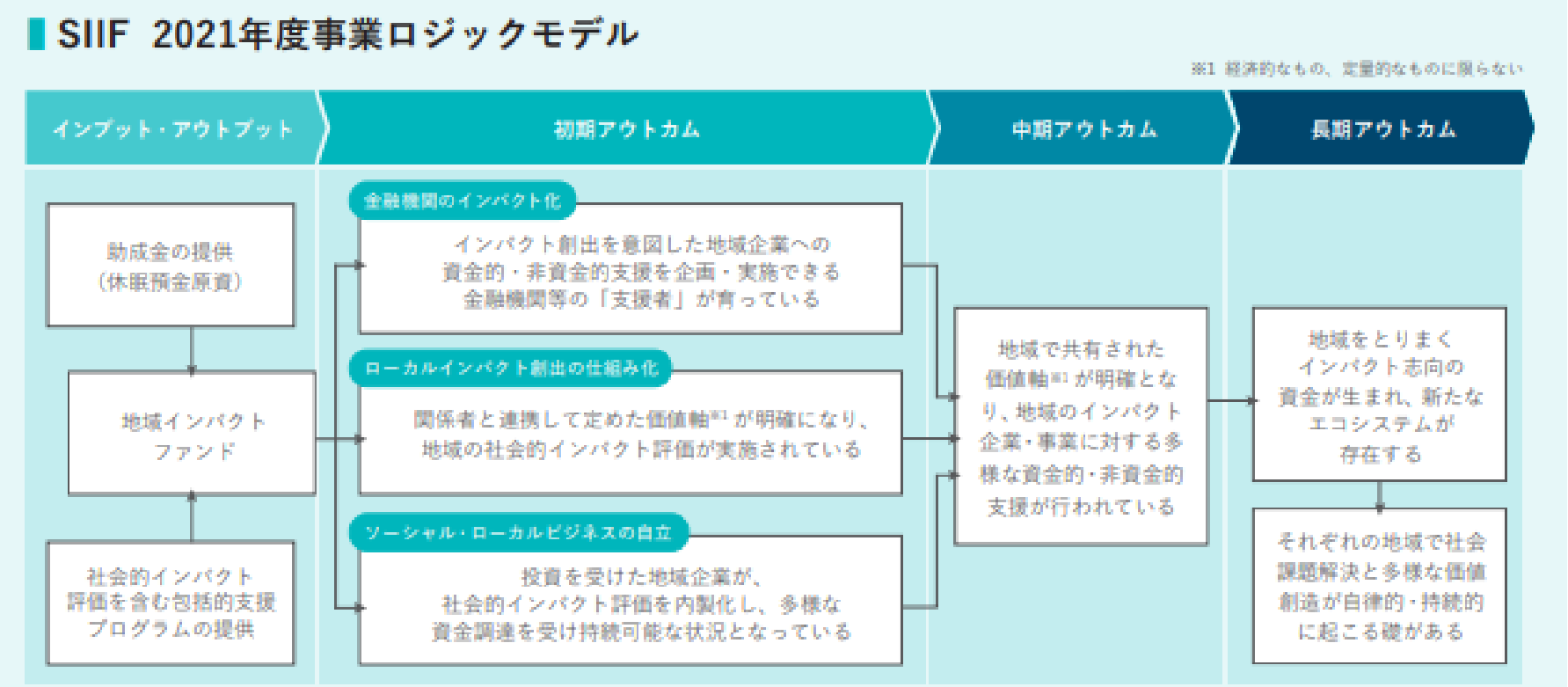
地域の社会課題解決に挑戦するインパクト企業は多くの地域に生まれてきているものの、人材、ノウハウの不足から、そうした企業を金融、非金融の両面からサポートし、リスクキャピタル(ビジネスリスクを負う資金)を供給できる地域ファンドは多くはありません。また、地域にとって重要な価値（ローカルインパクト）とは何か、その合意が域内でも成されておらず、どこにどれだけの資源を投入しサポートするべきか見えにくい状況です。既存の地域金融システムではインパクト起業家に対して十分な資金供給ができていない現状もあり、SIIF はこれらを解決する方法として、地域密着型の金融機関をはじめとする支援者が域内の社会課題を認識し、それを解決できる企業を見極め、資金だけでなく非金融面の支援（伴走支援）を行える能力、体制をもつことが必要だと考えます。

SIIF は本事業において、地域インパクトファンド（域内の社会課題解決に尽力する企業を金融・非金融の両面からサポートするインパクトファンド）設立時にインパクト戦略をともに考え、社会的インパクト評価・マネジメントの体制を設計、ファンドが投資先企業へ社会的インパクト評価・マネジメントを実施するためのノウハウを提供しサポートします。本事業をもって、地域金融機関などをはじめとしたインパクト起業家の「支援者」の社会的インパクト志向がよりいっそう高まり、地域インパクトファンドが自立的に運営されるなかで地域運営の仕組み自体が域内で創造される素地が整うことを期待します。

公募案 … **対象地域**：全国 ｜ **助成規模**：3～4 団体、1 団体最大 6,000 万円 ｜ **事業期間**：3 年 ｜ **公募時期**：2022 年春頃
助成金使途案：インパクトファンドの設立・運営時の社会的インパクト評価実施経費、若手実務人材育成費用および関連経費等

詳細は応募要項にて

2021年度通常枠「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」



各事業　申請数と採択数

	19年度事業	20年度事業	21年度事業
特徴	「地域を活性化するソーシャルビジネス」という広い間口	「地域の重要機能を維持するコレクティブインパクト」というより難易度の高い事業	「地域にてインパクトファンドを立ち上げる」という高難度の事業
広報	・信金中金経由説明会実施 ・金融系の新聞に記事掲載	・特段せず	・特段せず
事前相談	・特段せず	・思い当たるところと相談	・企画時点より相談
公募期間	・3カ月	・1か月	・1か月
申請数	・75団体	・24団体	・7団体
採択数	・6団体	・4団体	・2団体
反省点	・広く公募をしすぎて審査の負荷が大きすぎた	・公募期間をもう少し長くしてもよかった ・コレクティブインパクトの定義があいまい過ぎた	・（SIIFとの戦略に合致しているため仕方ないが）企画の難易度が高すぎ採択団体が２となった

まとめ

◆資金分配団体としての戦略・セオリーオブチェンジを明確に持ち、事前にそれに合致する実行団体候補があるか十分にヒアリングを行う。ヒアリング次第でセオリーオブチェンジを変更する

◆資金分配団体としての戦略・セオリーオブチェンジに合致する団体の要件を熟考した上で審査基準を設定する

◆どれくらいの申請数を期待するのか、それにより、企画の難易度を調整する

◆書類審査だけではなく、面談を複数回実施し、「審査」ではなく、３年という事業期間を「パートナー」として走り続けられるか、という点をしっかり見極める

◆可能であれば、当該申請団体に関する評判について、非利害関係者からの意見をヒアリングする

◆（将来的に伴走支援をすることにある）事務方の意見をしっかり審査に反映させる（外部評価委員会だけに依存しない）